

京都大学原子炉実験所からの高濃縮ウラン撤去に関する報道等について

先般開催された核セキュリティサミットにおいて発表された日米首脳の共同声明の中で京都大学原子炉実験所の施設である臨界集合体実験装置(以下、KUCA)で使われている高濃縮ウラン燃料を米国に撤去する旨が表明されました。

KUCA は、昭和 49 年の運転開始以来、一貫して高濃縮ウラン燃料を用いて実験研究・大学院生教育のために運転されてきました。一方、数年前より米国・オバマ政権の核セキュリティ政策の下で、KUCA の高濃縮燃料の返還並びに低濃縮ウラン燃料への転換に関して、日米政府関係機関を含めた検討を行ってきました。今般、日米政府の合意が得られたために共同声明として正式に表明がなされた次第です。

高濃縮ウランに対するセキュリティ対策については、我が国法令に定められた核セキュリティ対策(核物質防護措置)の方針にしたがって、監督官庁(現在は原子力規制庁)、大阪府警本部、泉佐野警察署との綿密な連携のもとにセキュリティ対策の維持と向上がなされています。さらに、現在のセキュリティ対策の妥当性、実効性については、年 1 回の原子力規制庁による検査を通じて確認が行われております。

当実験所としては、規制・治安当局からの要請への対応に加えて、自主的に警戒設備の機能向上、警備体制の強化などの追加的な核セキュリティ強化を行っており、原子力・放射線安全の維持向上とともに、セキュリティ対策の維持向上を行い、地域住民の皆様へ安心していただけるよう、安全管理を引き続き徹底いたします。

京都大学原子炉実験所長

川 端 祐 司